平成27年
11月3日(火)(祝)
13:00〜17:00

上映会 & トークセッション

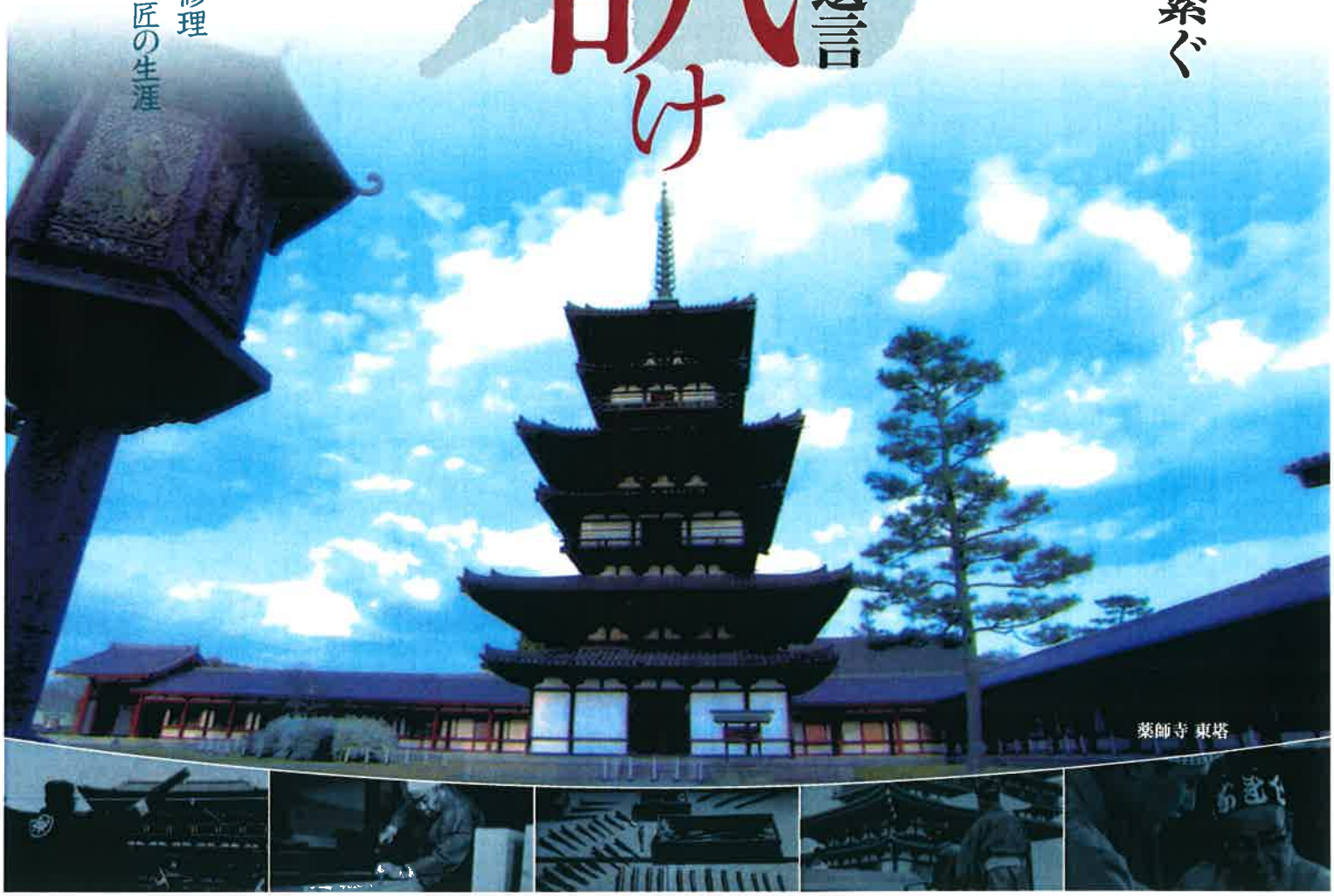
大阪ガス
ハグミュージアム
▶5階ハグホール
大阪市西区千代崎3丁目2番59号
入場料:500円

鬼に訊け

宮大工 西岡常一の遺言

千年先に、いのちを繋ぐ

「鬼」と称せられ法隆寺の昭和大修理
薬師寺の伽藍復興に一生を捧げた匠の生涯



主催:
後悔しない家造りネットワーク
一般社団法人 いい家塾

後援:(社)大阪府木材連合会、高知県
協賛:(有)あわとく、石津建設、公認会計士 林光行事務所、(株)山王、(株)紅中、椿原町森林組合、吉野・熊野の山ネットワーク、吉水商事(株)、(株)アイス、アトリエ2馬力、(株)岩鶴工務店、胡桃-KURUMI-設計、時愉空間、(株)ゼットテクニカ、(株)大ス樹、(株)山本博工務店、JDC出版、(株)桶村色彩工房

お申込 必要事項(氏名、住所、連絡先)をFAXまたはメールでご連絡ください。

お問い合わせ
✉ info@e-iejuku.jp FAX 06-6773-3420
TEL 06-6773-3423 (いい家塾事務局 釜中悠至)

上映会&
トークセッション

プログラム

1部 映画「鬼に訊け」上映

宮大工西岡常一棟梁の遺言
&
ドキュメンタリー映画

「鬼」と称せられた棟梁。法隆寺の昭和大修理、薬師寺の伽藍復興に一生を捧げた匠の生涯。「木は鉄を凌駕する」という信念は、現代文化に対する西岡棟梁の確かな反論である。最後の宮大工棟梁として千年先の後世に伝える感動の生涯。今、西岡常一棟梁の教えが静かなブームとなっている。

2部 「トークセッション」

パネリスト

安田 暎胤	法相宗 大本山 薬師寺長老 第126世管主
建部 清哲	(株)建部 代表取締役 宮大工棟梁 西岡棟梁の直弟子として薬師寺金堂の建立などに携わる
釜中 明	(一社)いい家塾 代表理事 塾長 日本ペンクラブ会員

コーディネーター

桶村 久美子	(株)桶村色彩工房 代表 カラーアナリスト 日本ペンクラブ会員 西岡常一棟梁の遺徳を語り継ぐ会 会員

そんなことしたら
木が泣きよります

木を切るっちゅーことは
命を二つに分けるということ

かつて鬼と畏れられた男がいた——

コンコンコン。ツーツーツー。鑿(ノミ)、鉋(カンナ)、釿(チョウナ)。音を聞いただけで誰の音かわかる。まなざしは、祈りとも魂の叫びとも聴こえるその音に包まれ、慈愛に満ち満ちていた。「千年の檜には千年のいのちがあります。建てるからには建物のいのちを第一に考えなければならんわけです。風雪に耐えて立つ—それが建築の本来の姿やないですか。木は大自然が育てたいのちです。千年も千五百年も山で生き続けてきた、そのいのちを建物に生かす。それがわたしら宮大工の務めです」。西岡常一、明治41年奈良県生まれ。木のいのちを生かし千年の建物を構築する。法輪寺三重塔、薬師寺金堂・西塔の再建を棟梁として手がけ、飛鳥時代から受け継がれていた寺院建築の技術を後世に伝えた「最後の宮大工」。平成7年没。西岡は何を伝え残そうとしたのか…。

木は鉄を凌駕する、現代文化に対する西岡棟梁の静かなる反論。

1990年5月、薬師寺回廊第一期工事。西岡は最晩年にあたるこの時期、癌に冒されながら最後の教えを若者達へ授けていた。「千年の檜には千年のいのちがある」「木は鉄より強し」。速さと量だけを競う、模倣だけの技術とは根本的に異なる日本人のいにしえの叡智、そして明快な指針。千年先へいのちを繋いでゆくという途方もない時間の流れが、所縁ある人々へのインタビューから浮かび上がってゆく。監督にビデオ作品『宮大工西岡常一の仕事』『西岡常一寺社建築講座』の山崎佑次、ナレーターに俳優の石橋蓮司、音楽にNHK連続テレビ小説『ちゅらさん』挿入歌作曲の佐原一哉を迎え、法隆寺、薬師寺の空撮を敢行。永遠なるものへの想い、そして西岡の深淵なる最後のまなざしを捉えた本作は、日本人が顧みることのなくなった日本文化と創造力を揺り動かす、日本の心の復興を願う「祈り」のドキュメンタリー映画だ。

ドキュメンタリー映画

山崎佑次監督作品　ナレーター 石橋蓮司

出演：西岡常一・西岡太郎・石井浩司・遠水浩・安田暎胤（薬師寺長老）

G 表示